

DMG MORI

第75期 中間

株主通信

2022年1月1日 ● 2022年6月30日



証券コード：6141

DMG森精機株式会社

DMG MORIは技術革新によって、持続可能な社会を実現していきます

私たちDMG MORIは、1948年の創業以来、工作機械の精度向上への挑戦を続けてきました。

工作機械が精密であるということは、CO₂排出量削減、循環型社会の実現、食料問題などのあらゆる社会的課題の解決につながります。工作機械産業は、世界中のお客様によりよい商品を提供すればするほどSDGsの実現に近づき、事業活動そのものが社会に貢献する産業であるということに、喜びと責任を感じております。基幹産業である工作機械産業に携わるものとしての責任を果たすことが、持続可能な社会と中長期的な企業価値の向上につながると考えています。



取締役社長
博士(工学) 森 雅彦

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。
ここに第75期中間期(2022年1月1日から2022年6月30日まで)の株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

Q | 2022年12月期中間期の業績は?

当第2四半期連結累計期間の業績は、工程集約、自動化、デジタルトランスフォーメーション(DX)化で粗利益率の改善が持続したことにより、売上収益は2,182億円(1,625百万EUR)、営業利益は177億円(132百万EUR)、税引前四半期利益は163億円(121百万EUR)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は113億円(84百万EUR)となりました。

当第2四半期累計の連結受注額は、好調を維持し前年同期比37%増の2,993億円となりました。お客様への付加価値提供が浸透していることに加え、円安の影響もあり、機械1台当たりの受注単価が49.6百万円(2021年度平均:39.4百万円)へと上昇したことが受注の大幅増加に寄与しました。グループ会社の株式会社マグネスケールも高水準の受注を確保したほか、サービス・補修部品の受注も前年同期比24%増と貢献しました。全地域において受注は増加しており、産業別も引き続き全産業とも好調を維持しました。

※ユーロ建表示は2022年1月から6月の期中平均レート134.3円で換算しております。

Q | 2022年12月期中間期の技術と成果は?

2022年4月1日には、AI・IoT・クラウドコンピューティングを中心とした先端技術を用いて、製造業のDXを推進するソフトウェアサービスを開発・提供する新会社「株式会社WALC」(ウォルク)を設立いたしました。IT人材の採用や積極的なインターンシップの受け入れを行い、優秀な人材の育成・支援も行っておりまいます。

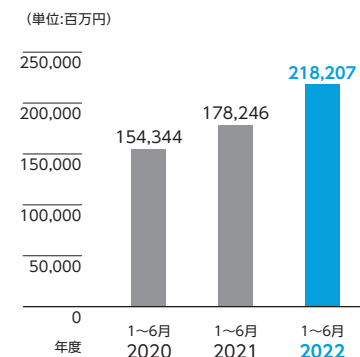
また、オンライン学習コンテンツ「デジタルアカデミー」において、新たに教育機関向けアカデミックプランの提供を開始した

ほか、カスタマーポータルサイト「my DMG MORI」の教育サービスである「スキルアップサービス」の1つとして、動画コンテンツ「工程設計アドバイザー(割出し5軸編)」の販売を開始いたしました。今後も5軸加工機や複合加工機に関する充実した学習コンテンツを提供し、お客様の生産性向上に貢献してまいります。

技術面では、CAMと当社の機械をつなぐソフトウェア「CELOS DYNAMICpost(セロスダイナミックポスト)」の販売を開始いたしました。従来個別に購入が必要であったポストプロセッサ、切削加工シミュレーション、切削力最適化機能の3つの機能を1本のソフトウェアで使用することが可能となって

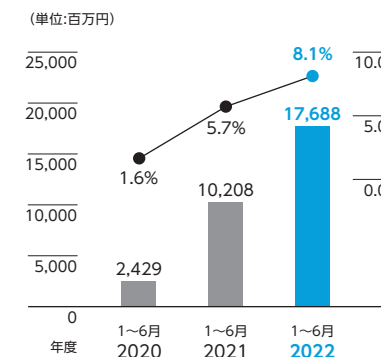
連結売上収益

(1~6月) **2,182** 億円



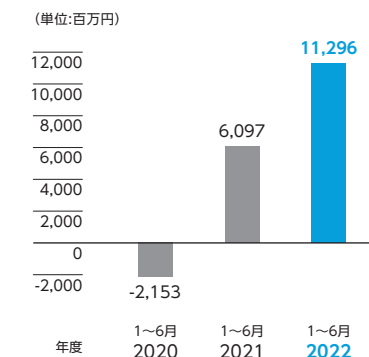
連結営業利益

(1~6月) **177** 億円 **8.1%** 営業利益率



親会社の所有者に帰属する四半期利益

(1~6月) **113** 億円



おります。その他、小型の複雑形状ワークを1台で加工する、シリーズ最小の複合加工機「NTX 500」を開発いたしました。NTXシリーズは、旋削とミーリングの工程を1台に集約できる複合加工機であり、今回開発した「NTX 500」は当社複合加工機の中でも最小のフロアスペースとなっております。今後もより多くのお客様のニーズにお応えできるよう、高機能で信頼性が高く、投資価値のある商品を市場へ投入してまいります。販売面では、デジタルコンテンツの充実化によりお客様とのコミュニケーションの品質向上に取り組むほか、5月はドイツ・フロンテン工場オープンハウスを開催し、6月、7月には愛知県で開催された「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022」に出展いたしました。小規模商談会「テクノロジーフライデー」も引き続きグローバルに開催しております。今後もデジタルとリアルの両方でお客様とつながり、お客様のニーズに沿ったご提案を行ってまいります。

Q | 2022年12月期通期の見通しは？

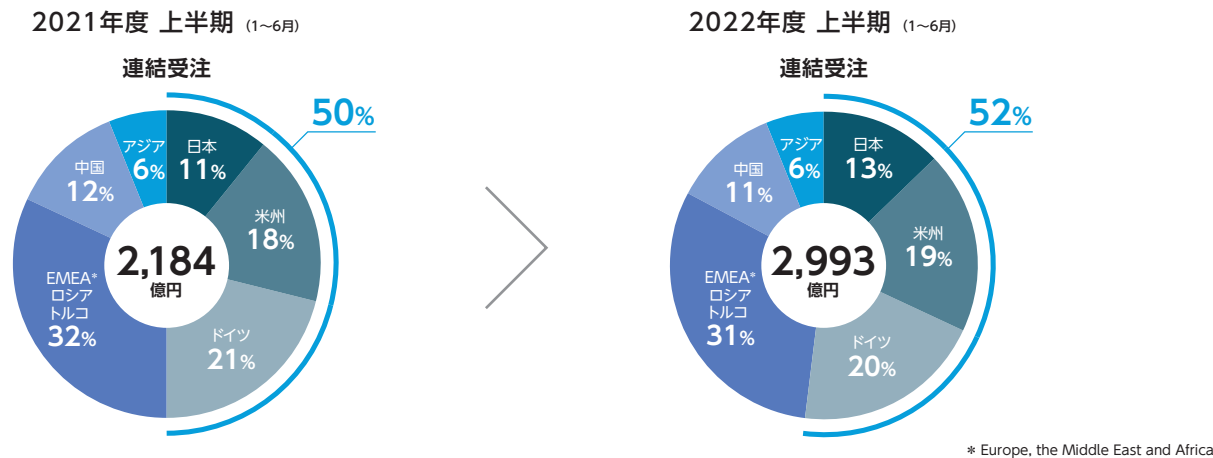
医療関連、航空・宇宙、金型、半導体製造装置など産業向けは、マクロ経済環境の変化をあまり受けず好調に推移しています。また、EV関連など新市場の拡大に向けた投資、脱炭素関連など社会ニーズへの対応投資も活発に行われています。こうした背景から、第3四半期以降も、工程集約、自動化、DX化を促進する工作機械の受注拡大が継続するものと考えており、2022年度の受注見通しを5,300億円以上に増額いたしました(期初計画：4,800億円)。また、受注残高は、2021年度末の1,640億円から増加しており、2022年12月末には2,400億～2,500億円程度を予測しております。年度売上収益は前年度比13.6%増の4,500億円、営業利益は

同95.1%増の450億円、営業利益率10%、親会社の所有者に帰属する当期利益は同2.1倍の280億円を見込んでいます。第3四半期以降は、第2四半期まで増加した在庫の売上計上、値上げの浸透などにより営業利益率は改善していく見込みです。当該事業見通しをベースに年度1株当たり配当金70円(中間：30円、期末：40円)を予定しています(前年度実績：40円)。当社は、経営理念にも掲げている通り、工作機械・独自領域・内製コンポーネンツ・周辺機器などのハードウェア及び

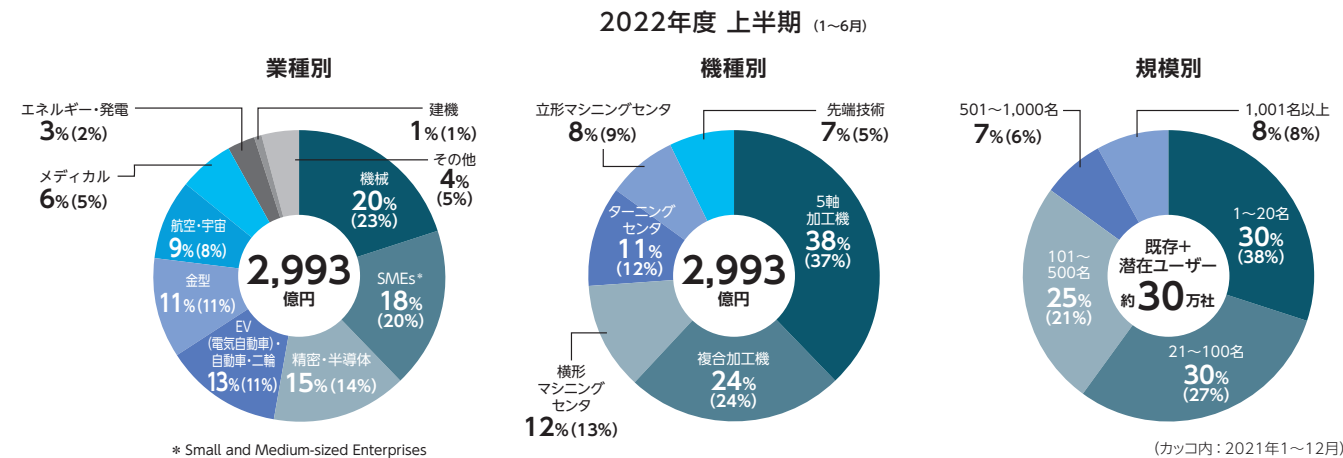
ソフトウェアと、加工システムの構築・高効率な加工プロセスの提案・保守保全・ファイナンスなどのサービスを組み合わせる最善の加工オートメーションを提供し、お客様の生産性向上に貢献することを目指しています。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年度上半期決算説明会のオンデマンド配信をこちらからご覧いただけます。
 https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/ir_library/video/

地域別受注構成 ※金額ベース



受注構成 ※金額ベース



連結財政状態計算書

(単位:百万円)

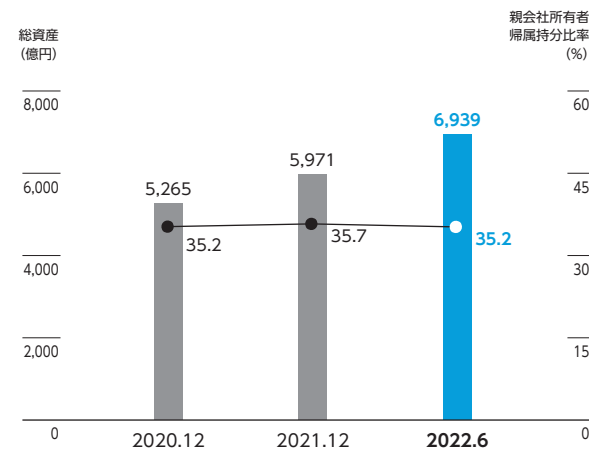
科目	前期	当中間期
	2021年 12月31日現在	2022年 6月30日現在
流動資産	254,692	311,088
非流動資産	342,425	382,783
有形固定資産	138,076	160,418
のれん	70,834	77,547
その他の無形資産	74,514	82,034
その他	59,001	62,784
資産合計	597,117	693,871
流動負債	254,409	311,883
非流動負債	125,428	133,428
資本合計	217,279	248,559
負債及び資本合計	597,117	693,871

連結損益計算書(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自 2021年 1月 1日 至 2021年 6月30日	自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日
収益合計	182,505	223,319
売上収益	178,246	218,207
その他の収益	4,259	5,111
費用合計	172,297	205,630
商品及び製品・仕掛品の増減	606	△6,343
原材料費及び消耗品費	77,884	97,739
人件費	56,983	67,062
減価償却費及び償却費	10,869	11,575
その他の費用	25,953	35,596
営業利益	10,208	17,688
税引前四半期利益	8,544	16,273
四半期利益	6,111	11,390
親会社の所有者	6,097	11,296
非支配持分	13	93

総資産／親会社所有者帰属持分比率



連結キャッシュ・フロー計算書(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	自 2021年 1月 1日 至 2021年 6月30日	自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,021	36,183
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,841	△21,639
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,538	△4,726
現金及び現金同等物に係る換算差額等	791	4,262
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,432	14,079
現金及び現金同等物の期首残高	33,754	47,298
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,185	61,378

詳しい解説は「IR資料 決算説明会資料・Q&A 決算リリース」よりご覧いただけます。

DMG森精機 投資家 検索

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>

Q 利益増減要因は?

A 当上半期(1~6月)の営業利益は、前年同期の102億円から177億円へと75億円増加しました。増加要因は、売上増で98億円、お客様へ生産性の高い製品・サービスの提案による値引き率の低下で38億円、分社化による生産性改善で18億円、円安で12億円、合計166億円となりました。一方、従業員の待遇改善で71億円、減価償却費・物流費などで20億円、合計91億円の費用増となりました。部材コストなどの上昇は、内製部品の拡大によるコスト削減や製品価格の値上げにより吸収しました。この結果、営業利益率は8.1%と前年同期の5.7%から大きく改善しました。

Q フリーキャッシュ・フローの見込みと設備投資は?

A 今年度のフリーキャッシュ・フローは300億円以上を計画しています。設備投資額は自動化・フルターンキー化などの需要増、内製拡大、新技術開発や脱炭素化など社会ニーズへの対応のため、従来計画から増加し、350億円程度となる見込みです。一方、利益の大幅増、前受金の拡大、売上債権の早期回収、棚卸資産の削減により、計画通りのフリーキャッシュ・フローを確保できる見込みです。当該事業見通しをベースに、年度1株当たり配当金は70円(中間:30円、期末:40円)を予定しています(前年度実績:40円)。

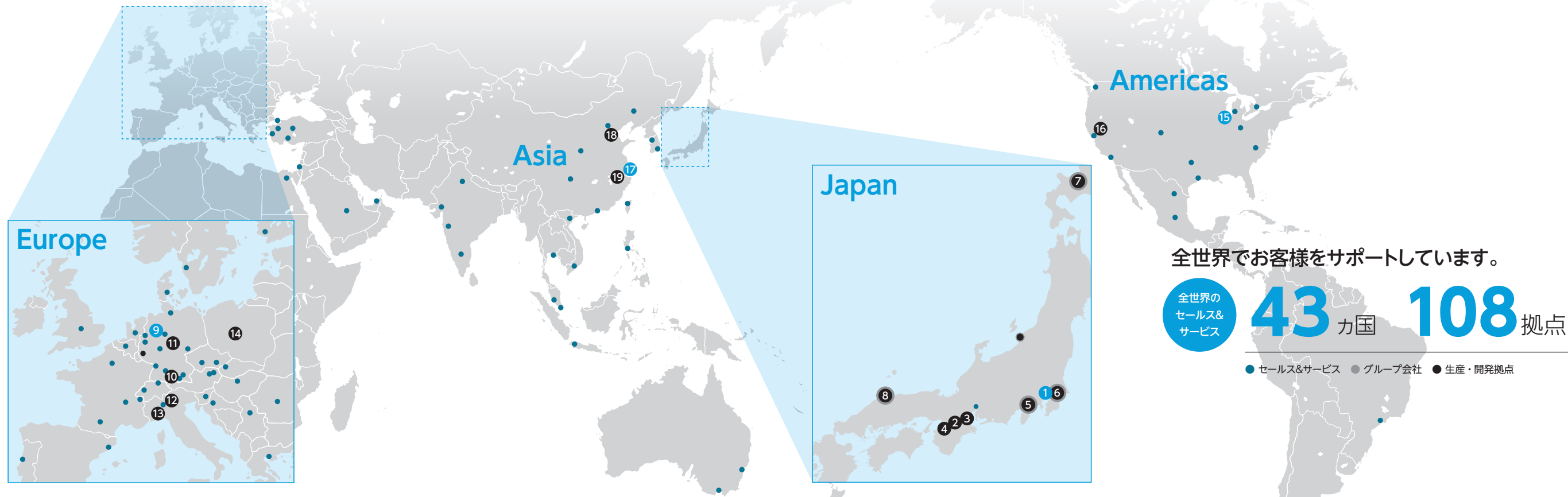
デジタルツインショールームのご案内

当社Webサイトに公開のデジタルツインショールームでは、伊賀事業所内のショールーム「伊賀グローバルソリューションセンタ」とドイツ・フロンテン工場内のショールームをフルCGで再現しています。日本語、英語、ドイツ語、中国語の4言語に対応し、合計51機種をデジタル展示しています。さらに、自動化システムを多数展示する「システムソリューションセンタ」では、実際には立ち入れない内部の様子までご覧いただけます。24時間365日まるでショールームを歩いているような没入感をぜひご体感ください。



デジタルツイン
ショールーム





日本



1 東京グローバルヘッドクォーター



2 第二本社・奈良商品開発センタ



3 伊賀事業所



4 奈良事業所 奈良システムソリューション工場



5 マグネステール(神奈川)



6 東京デジタルイノベーションセンタ



7 ビー・ユー・ジ-DMG森精機(北海道)



8 渡部製鋼所(島根)

ドイツ・イタリア・



9 Bielefeld (ドイツ)



15 Chicago (アメリカ)

ポーランド・アメリカ・中国



10 Pfronten (ドイツ)



16 Davis CA (アメリカ)



11 Seebach (ドイツ)



17 Shanghai (中国)



12 Bergamo (イタリア)



18 Tianjin (中国)



13 Tortona (イタリア)



19 Pinghu (中国)
※2023年操業開始予定



14 Pleszew (ポーランド)

※主要開発・生産拠点、ほか数カ所

「奈良商品開発センタ」を開設

当社は、創業の地である奈良にグループ最大のデジタルを駆使した先端技術の開発拠点となる奈良商品開発センタを開設しました。これに伴い、2022年7月1日から東京グローバルヘッドフォータ(東京都江東区)との二本社制を導入し、第二本社として機能します。災害・疫病・サイバー攻撃等へのリスク対応の視点から、いずれかの本社が被災した場合にも、遅滞なく本社機能を相互にリカバリーし、基幹業務を迅速・適切に遂行できる事業継続体制を整えることを目的としています。本社機能のほか、先端技術の開発や、JR奈良駅至近で京阪神いずれからもアクセスがよいという立地を活かした産学連携を含めた技術者交流の推進、関西を中心とした全国の優秀な人材を採用するための拠点としても機能します。なお、本店所在地は創業以来、奈良県大和郡山市であり、変更はありません。建物のデザインは建築家の隈 研吾氏に委託し、古都奈良と調和する建築をコンセプトとしています。エントランスの壁一面に設置している木目調アルミパネルは、当社の62社のお客様・団体のご協力を得て、当社の工作機械で総加工枚数920枚のアルミ材を切削して制作しました。3種類のパネルがあり、それらを縦につなげて1つの木の模様が完成するデザインです。本社機能・開発オフィスフロアのほかに、機械・要素技術開発の実験センタ、映像の撮影・配信を行うスタジオ、社員用レストラン・カフェ、フィットネスルームなどがあります。



奈良商品開発センタ



エントランスに施された木目調アルミパネル



複合加工機「NTX 500」



機内走行式ロボットIMTRIによるワーク自動脱着

省スペースな複合加工機「NTX 500」を開発

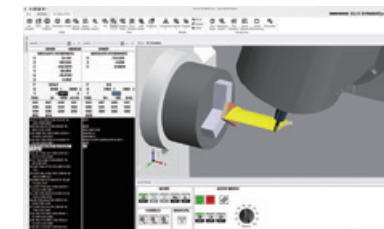
複合加工機NTXシリーズは旋削とミーリング工程を一台に集約できる複合加工機として、2010年の発売開始以来、幅広い分野のお客様にご使用いただいています。今回開発した「NTX 500」は、シリーズ最小サイズ(幅3,480mm×奥行2,060mm×高さ2,200mm)で、医療用機器、時計、光学部品、噴射ノズル、ロボット部品など、小型化・複雑化・超精密化が進んでおり、省スペースかつ生産効率の高い小型の複合加工機のニーズの高まりに対応します。また、多品種少量生産の自動化にも対応する機内走行式ロボットシステムやバーフィードなどのさまざまな自動化システムと連結してさらなる生産性向上を実現します。

複合加工機「NTX 500」紹介動画



「CELOS DYNAMICpost」を開発

加工ワークの複雑化により、ワンチャッキングで加工できる5軸加工機、複合加工機の需要が拡大しています。それに伴い、加工プログラムの生成にCAMソフトウェアの使用が増加しています。CAMで生成したツールパス(工具経路)は、ポストプロセッサにより使用する工作機械の制御装置に適したNCプログラムに変換する必要があり、従来は個別にポストプロセッサを購入する必要がありました。CELOS DYNAMICpostは、ポストプロセッサの機能に加え、切削加工シミュレーション機能、切削力最適化機能の3つの機能を1つに統合したPCソフトウェアです。これにより、お客様はプログラム作成から加工開始までの時間を大幅に短縮できます。また、実機での試加工をゼロにできるため、消費エネルギーの削減にも貢献します。



CELOS DYNAMICpostによるシミュレーション



AM Lab & Fab

AM機LASERTEC SLMシリーズ紹介動画



「AM Lab & Fab」を開設

お客様の金属積層造形の活用をサポートする受託加工サービス、Additive Manufacturing Laboratory & Fabrication (AM Lab & Fab)を2022年3月、伊賀グローバルソリューションセンタに開設し、本格稼働しました。積層造形(AM)は従来の切削加工では困難な複雑な形状を造形することができるため、近年飛躍的に市場が成長しており、需要が増加しています。一方で設備導入検討前にAM技術を試してみたいとお考えのお客様も多いため、AM Lab & Fabでは最先端のAM機を設置し、AMの受託加工を行います。また、AMコンサルティングや設置環境、周辺機器、プログラミングなど最適な導入環境の提案も行っています。

「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022」に出展

2022年6月30日～7月2日の3日間、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催のROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2022に出展しました。DMG MORIブースでは、最先端の自動化技術として、多品種少量生産の自動化を短時間で実現するロボットシステムMATRIS Light、ワーク着脱から工場内物流までの自動化を実現する自律走行型ロボットWH-AMR、大容量工具マガジンCTS(Central Tool Storage)を展示しました。また、自動化を推進するうえで課題となる切りくず・クーラント・ミスト処理の課題解決方法もご紹介しました。実演デモもご覧いただき、多くのお客様に当社が推し進める自動化の取り組みをご紹介することができました。



さまざまな自動化システムを展示

当社特設Webサイト



当社は持続可能な社会を目指し、脱炭素社会や資源循環型の社会に向けた取り組みを行っています。

特に、カーボンニュートラルに向けた取り組みをグループ丸となって加速しています。



当社のサステナビリティへの取り組みについて、Webサイトにて詳しくご紹介しています。
<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/sustainability/>

気候変動への対応

カーボンニュートラル達成

当社は、持続可能な社会を目指す一環として、カーボンニュートラルに向けた取り組みに注力してきました。自社によるCO₂排出量の削減を実施するとともに、国際的に認定された気候保護プロジェクトへの出資によりオフセットすることで、2021年以降、グローバルで生産する全商品が調達から出荷までの工程でカーボンニュートラルを達成しました。さらに、2023年から2030年の間に、サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル達成を目指しています。CDP気候変動質問書への回答やTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に賛同し、積極的な情報開示を行っています。また、2030年までの温室効果ガス排出削減目標を設定し、2021年11月に「SBTイニシアチブ」による認定を取得しました。

CO₂排出量削減の具体的な取り組み



伊賀事業所(2024年までに完了予定)

工作機械事業は、製造工程でのCO₂排出量は少なく、また、自社の製品の性能を高めることで社会全体の環境負荷低減に貢献できるという特長を持った産業です。目標の達成に向けて、実際のCO₂排出量削減を推進するさまざまな取り組みを進めています。2022年、伊賀事業所内の塗装工場にCO₂排出が実質ゼロの木質バイオマス熱電供給システムを導入しました。また、2024年までに伊賀・奈良の工場の屋根に太陽光発電を設置し、各事業所の一日の所要電力量の最大50%程度を賄う計画です。調達においては、従来は海外から輸入していた工作機械の主要部材である鋳物を、グループ会社の渡部製鋼所(島根県出雲市)からの調達に切り替えています。また、環境に配慮した最新の電気炉を導入し、2024年までに輸送分を含めて大幅にCO₂排出量を削減します。

人材の多様性

健康経営宣言

会社の安定した事業運営と将来に向けた持続的な発展成長にとって、従業員が心身ともに健康であることが必要不可欠であると考えます。重点施策として、健康診断結果に基づく再検査の受診徹底や個別健康指導など個々への継続的なアプローチを行うとともに、従業員の健康リテラシー向上のための機会提供に努めます。また、労働時間の管理、勤務間インターバルの徹底、有給休暇完全取得に向けたモニタリング実施などの労働条件の維持・改善や社員食堂を活用した食育支援など健康的な職場づくりに取り組みます。今後も「よく遊び、よく学び、よく働く」を体現する従業員の意欲的な働きに期待するとともに、会社を挙げて従業員の健康の維持・増進に向けて取り組んでいきます。健康経営宣言の当社特設Webサイトにて、組織体制や方針、取り組みについてご覧いただけます。

健康経営宣言
特設Webサイト



スポーツ、文化貢献

SAILING TEAM 新たな挑戦と若手育成

DMG MORI SAILING TEAM(以下、チーム)は、①白石康次郎選手とVendée Globe2024-2025で8位入賞を目指す、②日本にもっとヨット、セーリング文化を広める、③若手スキッパー・エンジニアの育成、の3つの活動方針に沿って活動しています。スキッパー白石康次郎選手は、Vendée Globe2024-2025に向けて、2022年既に2つの予選レースを完走し、年内にあと2つのレースに出場予定です。DMG MORI SAILING ACADEMYでは、4名の若手スキッパー研修生をチームに迎え、若手外洋セーラーの登竜門とされるクラスMini6.50で活動しています。2023年の大西洋横断ヨットレース「Mini Transat 2023」への出場を目指し、こちらも予選レースへ出場し実績を重ねています。



白石選手と
若手スキッパー
研修生

白石選手の
レース
スケジュール



SAILING
ACADEMY
紹介



JNO 奈良県内へアウトリーチ活動をスタート

当社が支援する音楽家 反田恭平氏と19名の若きソリストから成るJapan National Orchestra 株式会社は、2022年2月28日に奈良県と「文化活動の振興に関する連携協定」を締結しました。連携協定に基づき、奈良県内の小・中・高等学校等へ上質なクラシック音楽鑑賞、体験、指導の機会を提供することを目的とした、「奈良県未来の演奏家育成事業」によるアウトリーチ活動を6月1日より開始しました。奈良県の文化芸術の振興にさらに貢献すべく、奈良県内中学校等への訪問を実施してまいります。



奈良県立高円芸術高等学校



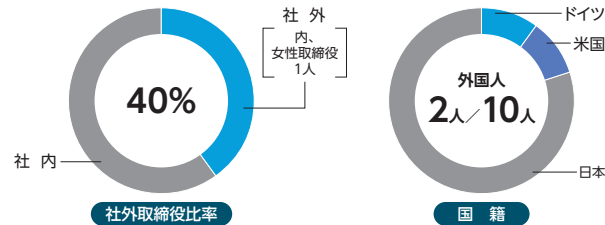
JNO公式サイト



ガバナンス体制

当社では、市場環境及び技術トレンドの変化の激しい工作機械業界にあって迅速な意思決定を旨として、取締役会とこれを支える執行役員による経営体制を構築しています。当社の取締役会は、外国籍2名を含む6名の社内取締役と、女性1名を含む4名の社外取締役、社外監査役2名を含む3名の監査役から構成され、ダイバーシティによるしなやかな経営を図っています。また、執行役員の年齢・国籍などにも多様性を持たせ、営業や開発など各機能または地域の執行責任者として重要な職責を担っています。

取締役会の多様性



取締役・監査役一覧 (2022年7月1日時点)

●取締役		●社外取締役		●監査役	
代表取締役社長 博士(工学)	森 雅彦	取締役 工学博士	青山 藤詞郎	常勤監査役	川山 登志雄
取締役副社長 DMG MORI AG 管掌	クリスチャン トーネス	取締役 弁護士	中嶋 誠		
代表取締役副社長 管理・製造管掌	玉井 宏明	取締役	御立 尚資	●社外監査役	
代表取締役副社長 経理財務・営業管掌	小林 弘武	取締役	渡邊 弘子	監査役	川村 嘉則
取締役副社長 品質管掌 博士(工学)	藤嶋 誠			監査役	岩瀬 隆広
取締役副社長 欧州・米州管掌 博士(法務)	ジェームス ヌド				

取締役のスキルマトリクス

氏名	企業経営	グローバル	工学	法務・コンプライアンス	財務・会計
森 雅彦	●	●	●		●
クリスチャン トーネス	●	●			●
玉井 宏明	●	●		●	●
小林 弘武	●	●			●
藤嶋 誠		●	●		
ジェームス ヌド		●		●	
青山 藤詞郎		●	●		
中嶋 誠		●		●	
御立 尚資	●	●			●
渡邊 弘子	●	●	●		

会社の概要

2021年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	〒639-1160 奈良県大和郡山市北郡山町106番地
東京グローバル ヘッドフォータ	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL：03-6758-5900(代)
第二本社・ 奈良商品開発 センタ	〒630-8122 奈良県奈良市三条本町2-1
主な事業内容	工作機械(マシニングセンタ、ターニングセンタ、 複合加工機、5軸加工機及びその他の製品)、 ソフトウェア(ユーザーインタフェース、 テクノロジーサイクル、組込ソフトウェア等)、 計測装置、修理復旧サポート、アプリケーション、 エンジニアリングを包括した トータルソリューションの提供
従業員	12,259名(連結)
ホームページ	https://www.dmgmori.co.jp

株式の状況

2022年6月30日時点

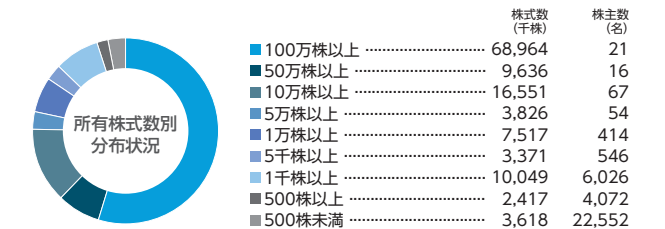
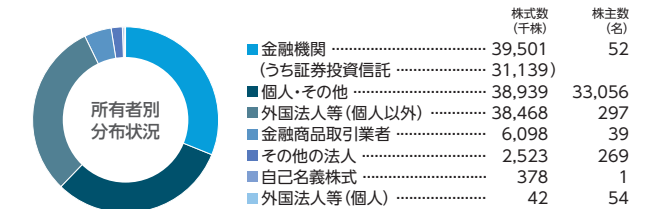
発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	125,574,791株(自己株式378,892株を除く)
単元株式数	100株
中間期末株主数	33,768名

大株主

2022年6月30日時点

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,758	14.14
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	10,755	8.56
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	6,526	5.20
DMG森精機従業員持株会	4,335	3.45
森 雅彦	3,591	2.86
株式会社日本カストディ銀行 (森記念製造技術研究財団)	3,500	2.79
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,318	1.85
JPモルガン証券株式会社	2,173	1.73
BBH FOR UMB BK, NATL ASSOCIATION- GLOBAL ALPHA INTL SMALL CAP FUND LP (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	1,971	1.57
DMG森精機取引先持株会	1,825	1.45

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には野村信託銀行株式会社(DMG森精機従業員持株会専用信託口)が所有する当社株式(6,600株)は含んでおりません。



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

ホームページにて当社の企業情報を随時公開しています。

商品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、コーポレートページではニュースリリースなどもご覧いただけます。

また、投資家情報ページにて決算説明会の様子をオンデマンド配信しています。

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>



TOPページ



コーポレートページ



投資家情報ページ

DMG MORIは、
以下のSNSで
情報発信しています。



Twitter



Instagram



YouTube



Facebook



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

